

ct

怒りのスキャンジナビア

-ikarino sukandhinabia-

de

Antonio Rojano

traducción de

Yoichi Tajiri / Akihiro Yano

(fragmento en japonés)

怒りのスカンディナビア
四人の役者、一つの影、一匹の猫のための夢想

アントニオ・ロハノ 作
矢野明紘 訳

登場人物

エリカ M.
バルザックマン
ルカス
ソニア / アグネス

作者注

上演の間、空間、現実、発せられた言葉が白日のもとにさらされる。同時に深い霧がそれ以外の簡単ではあるが理解できないものを隠している。ここで描かれる空間は、エリカ M. が後に言うように、読むだけで理解できるようなものではない。本のようなものではなく、地図のようなものである。というのも地図は、幼児期の記憶に残る街を思い出すように、街の時間と空間を想像するためだけに存在する。地図のようになることが、おそらく、戯曲というものの役目であろう。

エリアス・カネッティは言葉巧みにこう言った。「忘却したことすべては夢を通じて助けを求める。」この引用した言葉が『怒りのスカンディナビア』の読者を導くコンパス、登場人物の紹介書、この作品の中にある山のような陰を照らし出す灯となることを望む。

第一章 エリカM.が現実を地図に変える。

一人の人間が死んだ。ある出来事によって死んだ。もう忘れてしまった出来事によって。ずっと昔に読んだある本に書いてあった。記憶とは、棒を投げるとほかの何かを加えて持つ

てくる犬のようなものだと。

この話は、愛の物語のように始まる。現実世界でおこるように、ある男がある女と知り合っ
て、その後.....、そう思っていた。私たち人間の歴史は現実であったし、本物の愛の歴史
だと。愛によって、両親は息子を授かる。息子は、皮肉なことに.....、覚えている？ その
時、愛とは私たちのもの、自分の声や肉体のように私たちのものだと思っていた。ただ、
今では、頭の中にある黒い雪によって、この話が本当だったのか、それとも私がでっち上
げたものか分からない。

でも、教えて。感情の赴くがままに世界を旅行して、世界を知っているあなた。教えて。
現実とはいつも歴然たるものなの？ 現実とは単純明快なの？ 現実とは本のページを開
くようなものなの？ それとも、むしろ、開くのも、開いてから折りたたむのも難しい地
図を広げるようなものなの？

この話はある有名な場所から始まる。でも、終わりは外国の都市、開くのも折りたたむの
も不可能な地図の最後のページにある外国の都市で終わる。名前も思い出せないような都
市。ただ覚えているのは、最初の頃、暗闇がやってくるずっと前、あなたを愛していた。
それから、あなたは私を棄てた。

第二章 作者は頭の狂った若い男と捨てられた女性の奇妙な出会いを描く。

「知らない時間を創り出すことはできない。私が明日について考えるにしても、自分の記
憶の断片を通じて明日を創造することは無意味。過去を清算して、将来に旅立つことができ
る、そう言われているから。まだ見ぬ人が、私の人生という難しいパズルの最後に残っ
たワンピースを持ってきてほしい。」

一人の知らない男と性急な約束を交わす数時間前、この言葉がエリカM.の頭の中を何度
もよぎっていた。ある晩、初めて知り合うであろう新しい男。一日のうちで最も不毛な昼
寝の時間に、約束は果たされようとしている。というのもエリカM.は約束した公園に着
いて、若い男と出会ったところである。女は遅れてきたが、男は気にしていない。手を差
し出し、ベンチに座るよう促す。ベンチのいずれかに。どれでもいい。若い男が奇抜な衣
装、足元から頭まで全くのカウボーイの格好をしていることに失望してしまった。女はな
んにもこわくない。というのも男が自分よりも内気であると分かっているからだ。男がイ
ンターネットの中で名乗っている名前のせいで、見た目にも洗練された衣装を期待してい
たのかもしれない。女のせいではない。男のせいでもない。若い男の秘密は奇抜な格好と
ごまんと話す言葉の中から単につかむことはできない。木の梢が今晚このベンチから月を
隠すように、たくさん話せば秘密を隠すことができると男は分かっている。夜、男女の頭
によって月は隠されたまま、物語は始まる。

失ったものを探するために、二人はここにいる。何を探しているのか、何を望んでいるのか